



株式会社 **エフピコ**

証券コード：7947

第55期 中間報告書

平成28年4月1日～平成28年9月30日





代表取締役会長 (CEO)

小松安弘

代表取締役社長 (COO)

佐藤守正

平素は格別のご高配を賜り、
厚く御礼申し上げます。
ここに、当社第55期上半期の営業の
概況につきましてご報告申し上げます。

● 営業の概況

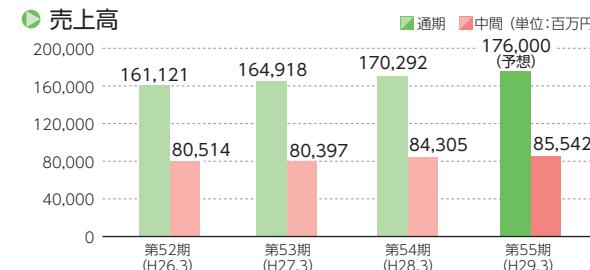
当第2四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年9月30日まで）におけるわが国経済は、企業収益が回復する中、雇用・所得環境は改善基調で推移しましたが、年初から為替相場は円高進行で株式市場は下落が続く個人消費は低調に推移し、新興国をはじめとする海外経済の減速懸念や英国の欧州連合（EU）離脱問題の影響などもあり、先行きは依然として不透明な状況となっております。

このような状況下、当社グループの販売面では、当社オリジナル製品であるマルチFP容器、マルチソリッド容器、OPET透明容器、新透明PP容器やリサイクル原料製品（エコトレイ、エコAPET容器）の販売数量を伸ばしております。当社オリジナル製品を中心とした新デザイン容器や新機能容器は、容器としての機能や働きはもとより、耐油・耐酸

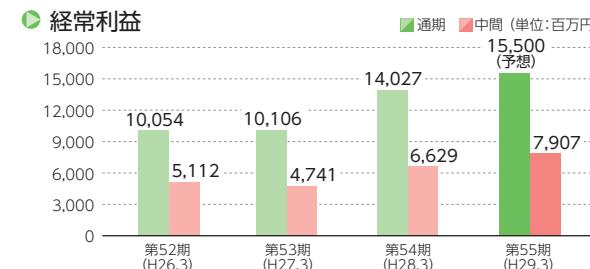
性や耐熱性等の素材機能の優位性もお客様に評価していただいております。特にマルチFP容器は、鍋・スープ容器、温惣菜容器やチルド弁当容器などとして採用されており、新たに耐熱の中皿をセットした蓋付深型耐熱容器を開発したことで、新透明PP容器とともに、電子レンジ加熱による今までにない商品開発が可能となり、小売店での新しい売り場づくりの提案と合わせて採用が広がっております。透明蓋やフードパック等の透明容器においては、OPET透明容器や新透明PP容器の品揃えを充実し、従来品であるOPS透明容器からの切り替えを進めており、エコAPET容器は、野菜サラダ容器や青果用容器などとして採用が広がっております。また、消費者の値ごろ感を求める動きもあり、売り場で食材の見栄えがする蓋付精肉容器や惣菜容器など新製品も販売数量を伸ばしております。

業績ハイライト

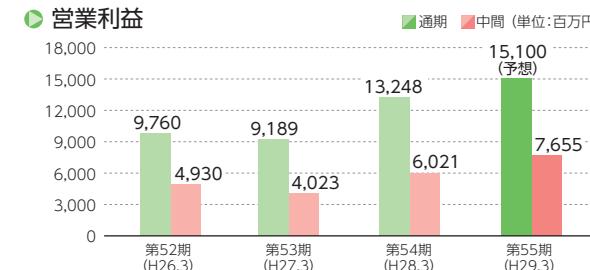
● 売上高



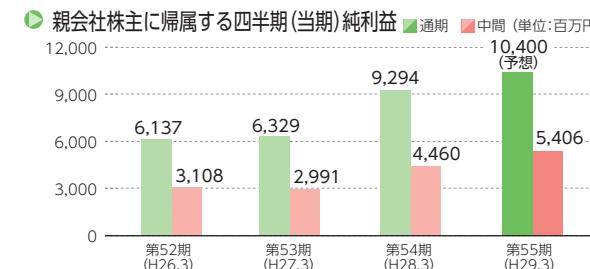
● 経常利益



● 営業利益



● 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



さらに、外食産業の中食進出が進んでおり、大手ハンバーガーチェーンではスープ容器、大手牛丼チェーンではテイクアウト容器と、大手外食チェーンで容器の採用が広がっております。その結果、当社グループにおいて生産する製品の当第2四半期連結累計期間の売上数量は前年同期比103.8%、売上高は前年同期比101.3%となりました。

また、当社グループ外より仕入販売する商品の当第2四半期連結累計期間の売上高は、商品調達力の強化を図り取扱量の増加と同時に不採算取引の見直しを行い、前年同期比101.8%となりました。

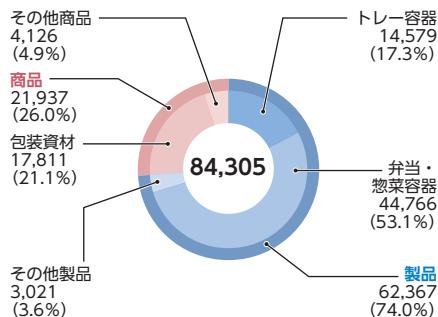
以上により、当第2四半期連結累計期間の売上高は855億42百万円、前年同期に比べ12億37百万円の増収（前年同期比101.5%）となり過去最高となりました。

利益面におきましては、新たな拠点や設備の稼

働開始、販売量増加に伴う物流費の上昇などによるコストの増加が約7億70百万円あり、補助金収入が約3億75百万円減少したものの、原材料価格の下落効果のほか、当社オリジナル製品や新製品の販売が好調に推移したこと、グループ全体で収益改善に努めたことにより、利益改善は総額で約24億20百万円となり、当第2四半期連結累計期間の営業利益は、前年同期に比べ16億34百万円の増益となる過去最高の76億55百万円（前年同期比127.1%）、経常利益は前年同期に比べ12億77百万円の増益となる過去最高の79億7百万円（前年同期比119.3%）、償却前経常利益は過去最高の134億10百万円（前年同期比119.1%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は過去最高の54億6百万円（前年同期比121.2%）となりました。

株主の皆様へ

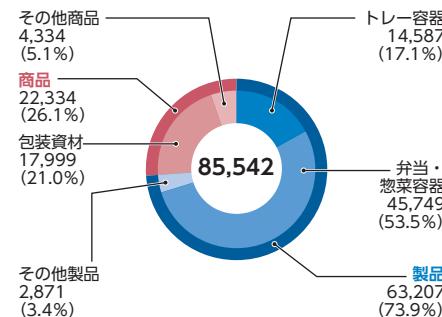
◆ 第54期 第2四半期 (単位:百万円)



営業面では、付加価値の高い新製品の開発と品揃えのスピードを加速し、当社オリジナル製品の販売構成を高めることにより、製品売上高の増加と利益率の向上を図っております。加えて、CO₂削減による環境への取組みや人手不足に対応した作業生産性向上のための改善提案とともに、リサイクル原料製品や汎用製品の拡販にも努めております。また、平成28年7月1日、株式会社上田包装企業の発行済株式を100%取得して同社を連結子会社とし、同日をもって、同社社名をエフピコ上田株式会社に変更いたしました。同社は、山陰地方のスーパー並びに食品加工会社に食品用包装資材を販売しております。当社グループに参画することで、当社の販売・物流ネットワークを活用し、お客様に付加価値の高いサービスを提供してグループ間の相乗効果を高めてまいります。

物流面では、6年間にわたって続けてきた全国を網羅する強固で柔軟な物流ネットワークの構築が一段落し、今後の市場拡大や繁忙期にも安定的に供給できる体制が確立できました。新たな取組みでは、BCP（事業継続計画）の一環として、災害などにより停電が発生した際にも重要な事業活動を継続するため、平成28年9月までに、全国21ヶ所すべての拠点に非常用発電設備の設置と72時間（3日間）の電力を確保するための燃料の備蓄が完了いたしました。これにより、お客様の事業活動の継続に寄与し、「必要な時に確実にお届けする」体制をより一層強固なものいたします。ま

◆ 第55期 第2四半期 (単位:百万円)



た、音声ピッキングシステムを導入し、ピッキング作業の生産性を向上させております。これらの施策により、製品及び商品をお客様にお届けするまでの流通全体のコスト抑制と安定供給を提供してまいります。

生産面では、平成28年3月に、中部PETリサイクル工場隣接地で中部エコペット工場の稼働を開始いたしました。これにより、中部PETリサイクル工場に回収したPETボトルやPET透明容器からリサイクルPETフレークを生産し、これを中部エコペット工場に空送した後、シートの押出を経てエコAPET容器を成型しており、回収したPETボトル・PET透明容器をエコAPET容器の原料として再利用するボトルtoトレーのエフピコ方式リサイクルを推進する一貫生産を行っております。加えて、中部エコペット工場では、OPETシート押出3号機及び製品成型機を設置し、OPET透明容器の生産拠点としても機能しております。さらに、エコAPET容器の生産能力の拡大を図るため、関東八千代工場の敷地内に、中部エリアのリサイクル施設と同様に回収したPETボトルやPET透明容器からリサイクルPETフレークを生産し、これを原料としてシート押出を経てエコAPET容器を成型するPETリサイクルプラントとシート押出・成型設備を併せ持った一貫生産を行う新たな工場の建設を進めております。また、全国の成型工場においては、産業用ロボットの導入を推進し、生産工程の省人化・自動化に取り組んでおります。平成28年9月までに自動包装機及び除塵包装機が19台、ケース梱包ロボットが4台稼

働し、省人化効果が49名となっております。平成29年3月には自動包装機及び除塵包装機を計26台、ケース梱包ロボットを計16台稼働させ、省人化効果を82名と見込んでおります。その後も産業用ロボットを導入し、生産工程の省人化・自動化に取り組んでまいります。

平成28年6月には、物流面における音声ピッキングシステム導入や生産面における産業用ロボット導入などIT活用が評価され、経済産業省と東京証券取引所が共同で選ぶ「攻めのIT経営銘柄2016」に2年連続で選定されました。

この他、研究・開発分野においては、新素材・新製品の研究や製品開発のスピードアップと充実を図っており、研修施設を活用した人材育成にも従来以上に注力しております。社会的責任としての障がい者雇用の促進につきましては、平成28年9月末現在グループ全体で367名（障がい者雇用換算数631名）及び業務提携先に64名の雇用の機会を提供しております。平成28年10月には、東洋経済新報社が発表した「障がい者雇用率ランキング」において、当社が3年連続で第1位にランクインいたしました。

今後の見通しにつきましては、消費者の動向、為替相場や原油価格の変動による原材料コストや電力料金増減など、当社グループをとりまく経営環境には、予断を許さない状況が続くものと予想されます。

一方で、昨今の国内企業をとりまく環境は、雇用環境の改善を受け、人手不足による人件費高騰が深刻化しており、人材確保に苦慮する状況となっております。

このような状況下、当社グループは、関東地域の人

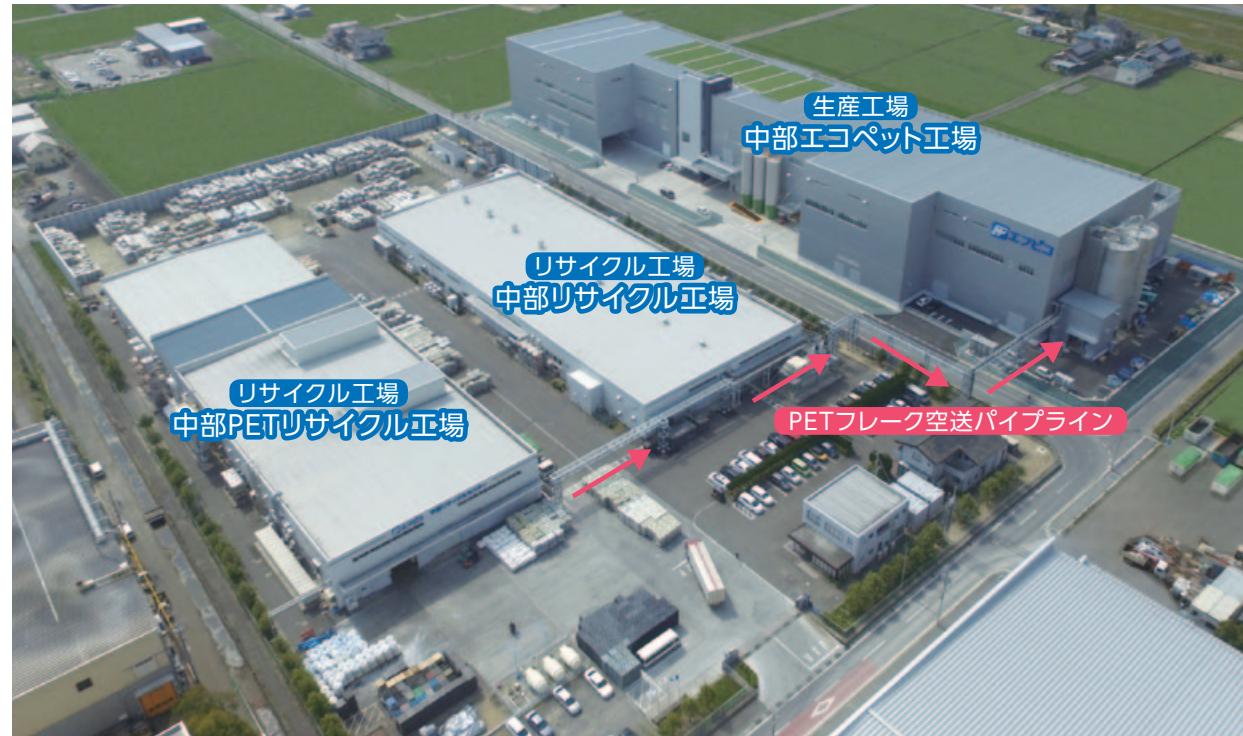
材不足に対応し、広域から人材を確保するため、茨城県筑西市に150戸のワンルームタイプの社宅建設を進めており、平成28年12月に完成予定となっております。また、人材確保の難しい中部エリアには、岐阜県安八郡輪之内町に102戸の同様の施設を建設しており、平成29年3月に完成予定となっております。生産部門では産業用ロボットの導入を推進し、物流部門では音声ピッキングシステムの導入や、自動ソーターシステムを配置するなど、省人化を図るとともに作業生産性を向上させており、今後も、このような生産・物流コスト抑制に向けた施策を展開してまいります。さらに、当社オリジナル製品をはじめとした新製品の開発と品揃えのスピードのさらなる加速、全国を網羅する物流ネットワークを活用した流通全体でのコスト抑制の提供などにより、中長期的に安定して利益を獲得できる体制を強化してまいります。平成28年3月から稼働を開始した中部エコペット工場では、回収したPETボトル・PET透明容器をエコAPET容器の原料として再利用するボトルtoトレーのエフピコ方式リサイクルを推進し、当社グループにおいて生産するAPET透明容器のうち、エコAPETの販売比率を平成28年3月時点の74%から平成29年3月には87%まで引き上げてまいります。関東八千代工場の敷地内に建設中のPETリサイクルプラントとシート押出・成型設備を併せ持った新たな工場は、平成29年8月に完成予定となっております。

株主の皆様には、何卒、一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年11月

用語説明			
マルチFP (MFP) 容器	-40℃～+110℃の耐寒・耐熱性、耐油・耐酸性及び断熱性に優れた発泡PS (ポリスチレン) 容器	OPS透明容器	従来からの二軸延伸PS (ポリスチレン) シートから成型した透明容器 耐熱温度+80℃
マルチソリッド (MSD) 容器	マルチFPの端材を活用し、その特性を維持しつつシャープな形状を実現した非発泡PS (ポリスチレン) 容器 耐熱温度+110℃	エコトレー	スーパーで店頭回収されたPS容器と工場内端材を原料とするリサイクル発泡PS容器 (平成4年販売開始)
OPET透明容器	二軸延伸PETシートから成型した、耐油・耐酸性に優れ、透明度も高くOPSと同等の耐熱性を実現したPET (ポリエチレンテレフタレート) 透明容器 耐熱温度+80℃	エコAPET容器	スーパーで店頭回収されたPET透明容器、PETボトル及び工場内端材を原料とするリサイクルPET透明容器 (平成24年販売開始)
新透明PP容器	標準グレードのPP (ポリプロピレン) 原料からOPSと同程度の透明度を実現した透明PP容器 耐熱温度+110℃	フードバック	スーパーの揚げ物バイキングコーナーなどで使用される、蓋 (フード) と本体が一体となった汎用透明容器

中部エコペット工場完成・稼働開始



PETボトルからエコAPET製品を製造する一貫生産拠点である中部エコペット工場が、平成28年3月稼働開始しました。中部エコペット工場は、中部リサイクル工場・中部配送センターに隣接しており、岐阜羽島駅（東海道新幹線）、岐阜羽島IC（名神高速道路）からアクセス可能な岐阜県安八郡輪之内町南波に位置しています。傍を流れる川を横断する名神高速道路からは、中部エコペット工場の大きな姿をご覧いただけます。工場外部でまず目に留まるのは、中部PETリサイクル工場と連結された配管です。これは中部PETリサイクル工場から再生原料を直接中部エコペット工場に送るための空送パイプラインで、1日に約10～

20tの再生原料を送ります。建屋内は4階層で、1階には押出工場・成型工場・現場事務所、2階には原反倉庫と食堂・更衣室などのサブスペース、3階はでき上がった製品が保管される物流倉庫となります。また、1階と2階の間には中2階が設けられており、見学をメインとした来客者用のスペースと会議室があります。見学ルームは150名を収容できる大型スペースとなっております。見学にご来場いただいた方には、押出工場でのシート製造工程から成型工場での製品製造工程まで、一貫した生産ラインをご覧いただける工場となっております。

PETボトルリサイクルからエコAPET製品ができるまで！

中部PETリサイクル工場



PETボトルベール搬入
使用済みPETボトルが圧縮された状態で搬入されます。



前処理工程
圧縮されたPETボトルをバラバラにし、その中から異素材品を選別した後、砕きます。



洗浄工程
キャップとラベルの最終分離工程およびアルカリ水洗浄により不純物を除去します。



品質検査を経て生産工場に空送されます。

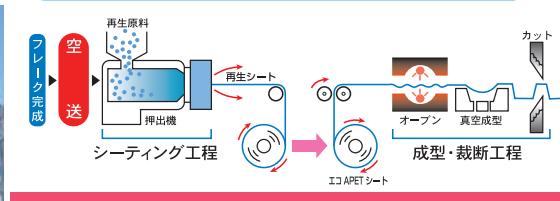


食品容器適合グレードフレーク完成
食品容器に適したグレードの原料として使用できるPETフレークとなります。



発揮留分除去工程
高温真空にした反応炉を時間をかけて通過させ、発揮留分を除去する工程です。

中部エコペット工場



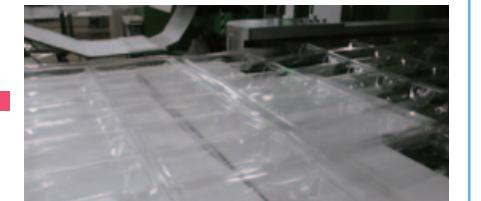
PETフレーク空送パイプライン
中部PETリサイクル工場でリサイクルされたPETフレークは、パイプラインを通じて中部エコペット工場に空送。抽出工場で再生原料として投入され、エコPETシートとして生まれ変わります。



排出された製品は、チェッカーにより品質検査されたのち袋詰めされ、1袋ずつコンベアーで金属検出器を通過後、ダンボールに梱包されてエコAPET製品として出荷されます。



エコAPET製品
裁断された製品はストックされ、所定枚数になると自動排出されます。



エコAPET成型工場
成型工場へ運ばれたエコAPETシートは、成型機にてオープンで熱を加え軟化させて成型加工されます。成型加工されたものをトリミング機に投入し、製品1枚ごとに裁断していきます。この時発生するロス部分は、粉碎機で粉碎したのちに原料として再度押出機に投入します。

「攻めのIT経営銘柄」に2年連続選定

経済産業省と東京証券取引所が共同で選ぶ「攻めのIT経営銘柄2016」選定企業26社が公表され、エフピコが2年連続で選定されました。

「攻めのIT経営銘柄」とは、平成26年度より、東京証券取引所の上場会社の中から、中長期的な企業価値の向上や競争力の強化といった視点から経営革新、収益水準・生産性の向上をもたらす積極的なITの利活用に取り組んでいる企業を選定・紹介するものです。当社は、物流面において音声ピッキングシステムを導入

して大幅な生産性向上を実現。生産工程では、産業用ロボットを導入し包装工程の自動化を実現するなど、積極的なIT活用が銘柄選定の基準となりました。

エフピコは今後も、「もっとも高品質な製品」を「どこよりも競争力のある価格」で「必要な時に確実にお届けする」という経営上の基本方針をより高次を実現するため、今後も積極的なIT活用を推進してまいります。



福山市名誉市民 推戴式



この度、小松安弘会長は、福山市が市制100周年という節目を迎えることを記念する、栄誉ある「福山市名誉市民」に故・栗原靖氏（書家）とともに推戴され、去る3月15日に推戴式が挙行されました。福山市を本拠地として、卓越した経営力と指導力で当社を簡易食品容器業界のトップ企業に育て上げた小松会長の経済・社会・教育文化等多岐にわたる功績が認められたものです。



▶ 四半期連結貸借対照表

(平成28年9月30日現在)

(単位：百万円)

資産の部		
科目		金額
流動資産		74,816
固定資産		142,617
有形固定資産		133,976
無形固定資産		2,431
投資その他の資産		6,209
資産合計		217,434
負債の部		
流動負債		75,498
固定負債		46,442
負債合計		121,941
純資産の部		
株主資本		94,313
その他の包括利益累計額		747
非支配株主持分		431
純資産合計		95,492
負債純資産合計		217,434

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

▶ 四半期連結損益計算書

(平成28年4月1日から平成28年9月30日まで)

(単位：百万円)

科目	金額
売上高	85,542
売上原価	57,194
売上総利益	28,348
販売費及び一般管理費	20,692
営業利益	7,655
営業外収益	409
営業外費用	157
経常利益	7,907
特別利益	81
特別損失	261
税金等調整前四半期純利益	7,727
法人税、住民税及び事業税	2,416
法人税等調整額	△111
四半期純利益	5,421
非支配株主に帰属する四半期純利益	15
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,406

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

▶ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(平成28年4月1日から平成28年9月30日まで)

(単位：百万円)

科目	金額
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,413
投資活動によるキャッシュ・フロー	△13,970
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,563
現金及び現金同等物の増減額	6
現金及び現金同等物の期首残高	15,089
現金及び現金同等物の四半期末残高	15,096

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

会社情報 (平成28年9月30日現在)

● 会社の概況

社名 株式会社エフピコ
FP CORPORATION

本社 〒721-8607
広島県福山市曙町一丁目13番15号
TEL 084-953-1145 (代表)

東京本社 〒163-6036
東京都新宿区西新宿六丁目8番1号
新宿オークタワー36F
TEL 03-5320-0717 (代表)

設立年月日 昭和37年7月24日

資本金 13,150,625,630円

企業集団の
主要な事業内容 当社グループは、簡易食品容器関連事業
及び商事関連事業を営んでおります。

ホームページ <http://www.fpco.jp/>

● 取締役

代表取締役会長 小松 安弘

代表取締役社長 佐藤 守正

専務取締役 高西 智樹

専務取締役 江崎 義隆

専務取締役 永井 信幸

常務取締役 池上 功

常務取締役 上垣内 詳治

常務取締役 安田 和之

取締役 岡 恒治

取締役 佐藤 修

取締役 永尾 秀俊

取締役 小林 健治

独立社外取締役(監査等委員) 末吉 竹二郎

独立社外取締役(監査等委員) 緑川 正博

社外取締役(監査等委員) 中居 敏郎

社外取締役(監査等委員) 松本 修一

株式の状況 (平成28年9月30日現在)

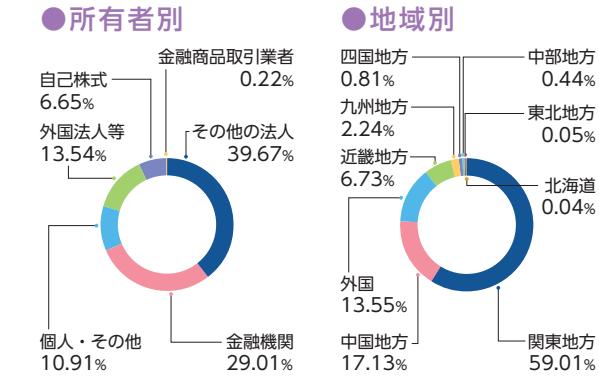
● 株式の状況

発行可能株式総数 120,000,000株

発行済株式の総数 44,284,212株

株主数 3,250名

● 株式分布状況



● 株価の推移



※1 平成25年6月までは大阪証券取引所、平成25年7月以降は東京証券取引所における株価及び売買高を示しております。
 ※2 平成26年4月1日付で1株を2株に分割する株式分割を行っており、当該株式分割調整後の数値を記載しております。

● 大株主の状況 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社小松安弘興産	14,339	34.69
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,098	5.07
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,754	4.24
積水化成工業株式会社	1,732	4.19
CBNY-GOVERNMENT OF NORWAY 常任代理人シティバンク銀行株式会社	952	2.30
株式会社西日本シティ銀行	880	2.12
エフピコ共栄会	822	1.98
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (三井住友信託銀行再信託分 株式会社もみじ銀行退職給付信託口)	762	1.84
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	652	1.57
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (退職給付信託積水化成工業口)	600	1.45

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
 2. 持株比率は、自己株式数(2,943,972株)を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主 確定日	3月31日
中間配当金受領株主 確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関 同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777 (通話料無料)
上場証券取引所	株式会社東京証券取引所
公告の方法	電子公告 公告掲載URL http://www.fpco.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、 その他やむを得ない事由が生じたときは、日本 経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

1. ご住所・お名前の変更、単元未満株式の買取・買増請求、配当金受取方法の変更などについては、お取引のある証券会社にお問合せください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、上記特別口座の口座管理機関にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本店及び全国各支店でお支払いいたします。